



ふるさとだよ

よしき

FURUSATO DAYORI YOSHIKI

2017
3
No. 732



CONTENTS

【トピックス】

少年の熱い思いと世代を越えた地域の絆
～市駅伝競走大会 もうひとつの物語～… 2

【よしき四方山ばなし①】

鳳凰山の金の馬… 3

インフォメーション… 4

【シリーズ歴史①】
大内義隆逃走路… 5

レポート… 6

【シリーズ偉人①】

「初代良城小学校校長」
名井守介とその継承者たち… 7

【よしきで輝く】
3B体操教室… 8

かけはし… 8





少年の熱い思いと世代を越えた地域の絆 市駅伝競走大会 もうひとつの物語

過去最大規模の大会となった
第12回市駅伝競走大会

1月15日、さらら博記念公園で開催された「第12回山口市駅伝競走大会」は、出場チーム約240チーム、1,610人の参加者で、過去最大規模となりました。



会場のさらら博記念公園

初出場から4年入賞の壁
満を持して3チームの布陣で臨む

吉敷地域は、体育振興会を中心に、4年前からこの大会に出場しています。

当初は1チームのみでしたが、次第に駅伝仲間を増やし、今大会では「吉敷体協Y」、「吉敷体協O」、「吉敷レディース」の3チームの布陣で臨むことができました。

過去の上位成績は、初出場の平成25年度が5位、平成26年度が4位、平成27年度も4位と入賞の壁が立ちふさがっていましたが、今大会はついに準優勝の快挙を成し遂げることができました。

少年の熱い思いそして友情の力

そうした中、ひとときわ輝いていたのが石田哲大くん(下東)と中野奨真くん(上東)。石田哲大くんは下東に生まれ、良城小学校、鴻南中学校出身、今大会では吉敷体協Oの1区を務めました。

中野奨真くんは大蔵地域に生まれ、鴻南中学校出身、今大会では吉敷体協Oの3区を務めました。

現在、別々の高校に進学し、お互い陸上部で活躍しているこの二人の出会い、鴻南中陸上部のときでした。



1区石田哲大くん

吉敷チームの監督を務めている平田要典さん(上東)が今大会の選手選考を行った際、まずは3年連続出場していた石田くんに声をかけましたが、陸上部の活動などもあり、出場を決めかねていました。

その時、一本の電話が平田監督のもとにかかってきます。それは中野くんから、「ぜひ吉敷と一緒に走らせてください」というお願いでした。平田監督もこの少年の

熱い志を快諾、このことを石田くんにも伝えると「中野が出るなら俺も」と出場を決意してくれました。

中学時代、同じ陸上部員として切磋琢磨してきた二人が、高校生になった今再び、同じ目標に向かって集い、あったのです。



3区中野奨真くん

少年の背中を押したのも

自ら連絡先を調べ、平田監督に出場を志願した中野くん。中学時代、石田くんは吉敷体協チーム、中野くんは鴻南中陸上部のチームとして出場していましたが、大会後の吉敷地域の懇親会に、平田監督から誘われた中野くんも参加していました。彼はこの時、地域の世代を越えた家族のような雰囲気、新鮮な魅力を感じていたそうです。地域の絆が、純粋な少年の背中を押す役割を果たしたとも言えます。



健闘を称えあう懇親会

チームづくりは地域づくり

初出場から今大会まで、チームを束ねる平田監督にこの駅伝競走大会の意義についてお聞きしたところ「強く感じたことがありません。それはチームづくりは地域づくりに通じるということです。石田くんと中野くんが出場を決めたように、また、初めて実現した父と息子のタスキリし、女性チームでの参加など、大会を通して様々な世代の交流が生まれ、そこから成長やドラマが生まれているからです。準優勝という快挙は純粋に喜ばしいことです。優勝という快挙は純粋に喜ばしいことですが、競技の結果以上に大切なことを大会を通して得ることができているのだと思います。」と強く語っておられました。



平田監督



吉敷の伝説

〜連載にあたって〜

「伝説」とは、過去に特定の場所で起ったとされる出来事などが事実であると信じられて、長い年月を経て人から人へと語り継がれてきた話です。吉敷には、左の分布図で示しているように、鳳翔山や吉敷川（水無し川）にまつわる話、大内氏の隆盛と滅亡を物語る話など、各地に興味深い伝説が残されています。

伝説を読むと、吉敷の歴史や風土、当時住んでいた人たちの生活に触れることができます。

伝説の保存と伝承

吉敷の伝説は、昭和32年に吉敷公民館主事であった高橋文雄氏により「吉敷地区郷土誌」として編集され、その後も昭和52年に良城小学校長であった田中行成氏により「吉敷のむかし」として、平成15年に中尾地区の難波要三氏により「吉敷の四方山ばなし」として編集されています。

こうした伝説は、地域づくり協議会のウェブサイトで紹介していますが、この広報紙でもシリーズ「よきき四方山ばなし」として紹介していきます。初回は鳳翔山にまつわる話です。

吉敷の伝説分布図



よきき 四方山ばなし

Vol. 1

「鳳翔山の金の馬」

カッチン、カッチンと石のみの音が坑内に重く響いています。坑夫は日光に恵まれず、青白い顔をして、毎日同じ仕事をしています。

その日は「やま」といって、昔から坑に入ると山の神のたたりがあると恐れられていました。

しかし、どうしたことが、その日に

限って、しきたりを破ってしまいました。普段と違ってなかなか仕事はかどりません。

その時、坑夫の一人が「おやおや」と異様な声で叫びました。その声のする方向に目を注ぐと、電光のような光が岩の間から漏れたと思うと、黄金の馬が現れました。

彼らの驚きは、たちまち狂気にかわりました。「これさえあれば一生楽に暮らせるぞ。」と黄金の馬をめがけて突進しました。しかし馬は動こうともしません。

いよいよ近づいて、つかんだと思っ

た途端、一大音響とともに周辺の岩石が崩れだし、底気味の悪い地鳴りが響きました。

その場に打伏したり、入口めがけて逃げ出そうとしましたが、崩れる岩や石に押し崩され、おびえで声さえ出ませんでした。

しばらくして我に返ったときには、そこにはもうあの黄金の馬は見えませんでした。

おきてを破ってまで一儲けをしてはならないという戒めの伝説ですが、その後、鳳翔山には黄金の馬が一頭埋められており、その足の一本は

誰かが掘り取ったが、残り三本は隠されているという話が伝えられています。また、青竹を斜めに切って地中深く差し込むと、竹筒にいったいの金がつまって出たという話も伝えられています。

こうした話から、鳳翔山がかつて金山として栄えていたことが伺えます。



イベント案内

母子相談

お子様の身体測定や、育児・離乳食に関することなど、保健師と栄養士が相談をお受けします。お友達づくりを兼ねて気軽にお越しください。お越しの際には、母子健康手帳をお持ちください。

【とき】3月8日(水)13時30分～14時30分
【受付時間】

【場所】地域交流センター 和室

【申込】不要

【問い合わせ】市保健センター

☎083-9221-2666

春のおはなし会スペシャル

毎月第2土曜日に地域交流センター図書室で読み聞かせをしている「絵本のひろば」の皆さんが、絵本の朗読会をします。綿菓子やポップコーンの無料配布もありますよ！

【とき】3月11日(土)10時30分～11時30分

【場所】地域交流センター 講堂

【申込】不要

【参加費】無料

【問い合わせ】地域交流センター

☎083-9222-3915



ブックスタート体験会

絵本に関心を持ち始める時期の乳児とその保護者を対象に、絵本を無料で贈呈する「ブックスタート体験会」を開催します。申込み不要ですので、ぜひご参加ください。

【とき】3月13日(月)
①10時～12時 ②14時～16時
※所要時間は一組15分程度

【場所】地域交流センター 和室

【問い合わせ】市立中央図書館

☎083-9011-040

親子リトミック教室

月に一度、ピアノのリズムに合わせて、親子で一緒に楽しくレッスンしませんか！

【とき】毎月第3月曜日10時～11時

【場所】地域交流センター 講堂

【対象】1歳から4歳までの未就園児と保護者

【定員】20組前後

【会費】年6,000円

【申込期間】3月1日(水)～3月14日(火)

【申込・問い合わせ】原田美季

☎090-4976-3814



吉敷地区地域づくり協議会 事務局員募集

募集人数 1名

【応募資格】様々な地域づくり活動や地域の方々との交流に積極的に取り組む意欲があり、パソコンの基本操作(ワードエクスセル)ができる方。

【賞金】月額6,820円(平成29年度)

【勤務地】地域づくり協議会事務局(山口市吉敷佐畑丁目4番1号 吉敷地域交流センター内)

【雇用期間】平成29年4月1日～平成30年3月31日(更新あり)

【勤務日】月15日以内(事務局員4人でローテーション。イベント、会議等により土、日、祝日、勤務時間外の勤務もあり。)

【勤務時間】8時30分～17時15分

【業務内容】地域づくり活動等に関する業務

・地域づくり協議会、自治会、地区社会福祉協議会の事務局業務

・地区内活動団体の運営支援

・地区の行事やイベントの運営(企画も含む)

・広報紙の作成など広報に関する業務

・選考方法 書類審査及び面接による

【応募方法】3月15日(水)までに市販の履歴書を持参。

【申込・問い合わせ】地域づくり協議会

☎083-9222-3344

学校施設定期利用団体募集

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの1年間を通して、学校施設を定期的に利用される団体を募集します。

【対象施設】

- ・良城小学校体育館
- ・良城小学校グラウンド
- ・鴻南中学校体育館
- ・鴻南中学校グラウンド
- ・鴻南中学校の夜間照明を使用し
てのグラウンド(ナイター)

【応募資格(要約)】

- ・吉敷地区在住者で組織されたスポーツ団体であること(鴻南中学校については大蔵地区在住者も可)。
- ・地域行事に積極的に協力できること。
- ※学校行事やその他地区行事等の都合により使用できない日があります。

【申込書類】地域交流センターに設置

【申込方法】所定の申込書に記入し、団体の構成員名簿等を添付のうえ、地域交流センターへ提出してください。

【申込期間】3月1日(水)～3月10日(金)

【利用調整会議】各団体から必ず1名以上の出席をお願いします。

・とき 3月16日(木)19時

・場所 地域交流センター 視聴覚室

【申込・問い合わせ】地域交流センター

☎083-9222-3915



少林寺拳法防州スポーツ少年団

みんなと一緒に少林寺拳法を始めてみませんか！親子、大人の入会も歓迎します。お気軽に見学にお越しください。

とき 毎週火曜日(19時～20時45分)・毎週金曜日(18時30分～20時15分)

場所 維新百年記念公園スポーツ文化センター・武道場(火曜日)・地域交流センター講座室(金曜日)

会費 無

申込・問い合わせ 伊藤秀樹(下東)

☎090-2861-8628



今月のぶっくん(移動図書館)

とき 3月3日(金)、17日(金)、

31日(金) 15時20分～16時

場所 地域交流センター 駐車場



表紙の人口・世帯数について

表紙の人口・世帯数は、昨年実施された国勢調査の基礎となる数値が総務省統計局から公表されたため、今月から従来の推計人口を掲載します。

3月の予定

- 3日(金) 子育て講座
- 8日(水) 母子相談
- 9日(木) 鴻南中学校卒業式
- 11日(土) 春のおはなし会スペシャル
- 12日(日) 多世代交流グラウンドゴルフ大会
- 13日(月) ブックスタート体験会
- 16日(木) ふれあい型給食
学校施設利用調整会議
- 17日(金) 良城小学校卒業式
- 18日(土) 凌雲寺発掘調査現地説明会
- 20日(月・祝) 吉敷ベタンク交流大会
- 21日(火) 古文書入門講座
- 22日(水) 吉敷幼稚園卒園式

4月の予定

- 10日(月) 鴻南中学校入学式
- 11日(火) 良城小学校入学式
- 12日(水) 吉敷幼稚園入園式
- 16日(日) 第46回吉敷地区大運動会
- 20日(木) ふれあい型給食

シリーズ



4

「大内義隆逃走路」

中尾東上の吉光家前から100メートル登ったところで山道を左折し、しばらく上ると谷に沿った道に出る。これをさらに登り切ると、法泉寺峠(標高約300メートル)に出る。ここを越すと県庁裏にある滝町の法泉寺地区に出る。昔は、中尾地区から山口に出る最短の道であつたらしいが、現在は樹木が繁り道としての姿はない。昭和三十年代、当時の吉敷史談会の会員が踏査しようとしたが分からなかつたと聞いた。

この道が、歴史上に登場したのが、陶軍に追われた大内義隆二行が法泉寺から逃れる時に通つた道なのである。一般的には、義隆一行が逃れた道は、法泉寺から糸米を通り、赤田の寺領から太田・岩永へとなつていく。

しかし、吉敷の郷土史家難波要二氏の説は違つている。法泉寺から南は陶軍が攻めてくるし、糸米周辺も見張りに固められているはずである。したがって、法泉寺から裏山越しにこの法泉寺峠を越すのが安全でもあるし近道でもある。この説には、義隆逃走に関わる伝説がある。難波氏が収集した伝説を紹介する。

第一、法泉寺峠から中尾へ下つたところに、土地の人が「塩原」と呼ぶ地があ

る。ここは、義隆を守る後詰めめの武士が、追つ手の陶軍と戦つたところである。後に、地区の人がこの戦いで死んだ双方の死者を葬るために、その場に塩を撒いて浄め、墓を建てた。そのために、この地を「塩原」と呼んでいる。別名「勝負原」とも言うよつた。

第二、凌雲寺跡より西側へ下りたところに小さな池があつた。義隆が身支度を整えるため、この池で顔を洗おうとしたところ、顔は写るが首が写らない。義隆は、自分の運命を悟つたそうである。村人は、この池を「姿見の池」とか「首なしの池」と呼んだ。この池は今はない。

第三、赤田の寺領に、義隆の姫君を祭つたという「西畑さま」の伝説がある。これは、法泉寺峠が難所で、女性には無理なので、姫君は数人の侍女と南回りのコースをとつたが、義隆二行に追いつくことが出来ず、陶軍につかまり殺されたというのである。土地の人は、寺領堤の西側に「西畑さま」という祠を建てた。

第四、夜中に山を越した義隆は、一軒の農家に立ち寄り茶を求めた。大変おいしい茶だったので、「茶屋を開いたら成功するだろう」と言い立ち去つた。その後、茶屋を開くと大繁盛した。今、その地を「茶屋」と言つ。

レポート

校庭は昆虫王国 お箸も作って 焼き芋ホクホクう〜アツッ!

1月21日(土)、良城小学校で「木の箸を作るう〜昆虫観察&焼き芋を食べよう」を開催しました。良城小の学校林を活用して開催される恒例行事です。

木の箸作りでは、学校林活用委員会の古木文仁会長(下東)がヒノキを使った箸作りを教えてくださいました。



昆虫観察では、角田正明さん(佐畑)が学校の中で真冬の昆虫観察会を開催、南米原産の大迫力のネブチューンオオカブトムシも披露してくれました。



最後は、良城小おやじの会を中心に焼いた焼き芋を食べ、みんな満腹になりました。参加した先生方もアツアツの焼き芋で口をホクホクしていましたよ(笑)



コロコロモミモミもち丸め

2月4日(土)、つどいの広場「楽楽楽」で、「らららのおもちつき」が開催されました。みんなで生懸命おもちをついて、「コロコロめ、モミモミしました。」

紫色や白色のおもちができてみんな満足そうでしたよ!



これでみんなもシヨコラティエ♡

2月5日(日)、「おかしづくり教室」を開催しました。この日のメニューはシヨコラケーキとコーヒープリンの2品。各グループで力を合わせて立派なケーキとプリンを完成させることができました。

「お母さんを持って帰るう〜」とお持ち帰りする子もいましたよ。



人として生きるよろこび大切に

2月4日(土)、「地区人権学習推進大会」を開催しました。地域交流センター定期利用団体のコーラスYUIが2曲のコーラスで華やかにオープニングを飾りました。今年も良城小学校児童と鴻南中学校生徒から人権啓発作品を数多く出品していただき、計24名が表彰されました。

優秀作文発表では、実体験に基づいた思いやりの大切さや、高学年として、後輩を尊重する気持ちなどからつむぎだされた純粋な表現に、来場者は深く感銘を受けたようでした。



最後に、梅光学院大学文学部の播磨桂子教授が「ことばのはたらき「分ける」「くくる」と題して貴重な特別講演をしてくださいました。

なお、良城小学校の梅田晃大くんの標語が地域交流センター正面の懸垂幕に採用されました。おめでとございます!



良城小学校児童 優秀賞受賞者

〈作文の部〉

浦 ことみ 河川 輝来 伊倉 若菜

〈標語の部〉

森永 瑞菜 岡 晃平 梅田 晃大
小森 洋之助 刀禰 圭太

〈ポスターの部〉

湯之上 菜々海 本廣 優貴
藤岡 健仁 浦 なつみ

鴻南中学校生徒 優秀賞受賞者

〈作文の部〉

新保 網基 出井 希

〈標語の部〉

中村 彩華 宮原 咲良 橋本 育真

〈ポスターの部〉

岩瀬 広樹 加藤 侑大 三浦 怜奈
田村 愛子 磯部 佳奈 金山 未歩
松熊 花菜子





「初代良城小学校校長」名井守介とその継承者たち

国民皆教育を目指した日本の近代教育制度は、明治五年（一八七二）八月「学制」の制定・頒布から始まり、同年九月に「小学校教則の布達」、同十一月「小学校教則概要」が公布された。吉敷村では、明治六年一月十五日、新町の円正寺を借りて「新町小学校」が開校した。

初代主幹（校長）には、幕末に第四代憲章館学頭を勤めた名井守介（四〇歳）が就任した。名井は、憲章館を出て筑前福岡へ遊学歴を持ち漢学に秀でていた立場から、明治三年憲章館の廃止で、土族の青少年たちが精神的な抛り所を失い、将来への不安を抱いていたのを憂い、すかさず吉敷中村の自宅に私塾「修焉齋」を開いて、彼らに希望を与えることに努めた。さらに主幹就任後の明治七年七月には、村民から抜群の尊敬と信望を得ていた名井の尽力で、旧毛利氏や土族の協力を得て、同じ新町筋（今の子安観音跡付近）に校舎を新築し、明治九年には校名も「良城（よしき）小学校」と改められた。また、開校時は村民の間に「今行かせている塾（私塾）



名井守介

で間に合うとか、授業料（当時は必要を払う金も無い）といった理由で、入校児童は百人余りであった。名井は昼夜、村内を一軒一軒訪ねて新しい学校制度の説明や就学の勧誘に骨を折った。開校三年後には児童数が九五人に達した。

明治十三年、名井は良城小学校主幹を辞した。在職八年、常に率先実行、身を以て子弟の教育に当たり、その徳風は永く子弟に受け継がれた。主幹を辞してからも平川村から招かれて教育に当たり、教えを受ける者数百人にのぼったと言つ。その後、自宅に隠居して、悠々、風月を友に余生を送り、明治四十四年一月四日、七十九歳の生涯を閉じた。明治二十五年には、門人らが相謀つてその徳を顕彰し、記念の奨学金制度を設け、良城小学校に顕彰碑を建立している。

名井のあと良城小学校校長には、地元の下東出身の谷川熊五郎（二代）、憲章館出身、山口師範学校卒、十八年間校長在任、その後村長に就任、同じ下東出身の河井安馬（四代）と続いた。その後途切れたが、大正五年（一九一六）四月に着任した倉光百合蔵（七代、四十二歳）は地元の子え抜きであった。彼は佐畑の出身で良城小学校高等科を卒業すると同時に、雇として母校に勤め、以来、苦学力行、教員の資格を得て校長まで昇りつめた。これを機に村当局は、倉光校長の下に努めて地元出身の教員を集め、一段と郷土に密着した学

校教育、社会教育に力を注いだ。教員自身の教養と学識を高めるために、谷川熊五郎を招いて週一回、漢学の講義を受ける会をつくり、また理科教育を充実するため、本村出身で県下理科教育の第一人者とされた重富龜（山口師範学校教諭の意見と指導で、簡易な理科機器などの整備に努めた。さらに郷土史にも深い造詣があり、昭和十二年（一九三七）四月に刊行された名著「吉敷村史」（非売品、三坂圭治編集）の史料は、ほとんど倉光校長の手で蒐集整理されたものである。

この間に、懸案の良城小学校の移転が、谷川熊五郎校長の下で明治二十二年十一月九日、ゆかりの憲章館跡に移転改築して落成式を挙行了した。以後、増改築を経て今日に至っている。また「学制」や教育全般についても大きく変貌を遂げているが、昭和四十八年七月には、開校百周年記念事業の一として、上田敏夫校長時代に大作「良城小学校百年史―吉敷の教育と文化―」が編纂された。特筆すべきは、本史の執筆者が、中尾出身の良城小学校卒業生で当時吉敷公民館職員であった高橋文雄で、彼は郷土史家としても県内外で高く評価されていた人物であった。良城小学校は平成二十九年三月、創立百四十四年を迎え、これまで八千四百四人（ただし、明治二十九年以降、それ以前は記録不明）の卒業生を世に送り出している。

（吉敷赤田平和生 著）

凌雲寺跡発掘調査現地説明会

凌雲寺跡は大内義興の菩提寺といわれ、吉敷地域で唯一、国の史跡に指定されています。

調査担当者が発掘調査の成果について説明するとともに、発掘状況をご覧いただけます。

【とき】3月18日（土）10時～11時30分

【場所】凌雲寺跡（中尾西）

【申込】不要

【参加費】無料

【駐車場】有（台数に限りあり）

※荒天中止

※駐車場から現地へは徒歩で7分程度かかります。

※運動靴あるいは長靴などの着用をお勧めします。

【問い合わせ】市文化財保護課
☎083-920-4111



昨年の現地説明会の様子

3B体操教室

DATA

【活動日】 毎週月曜日 19時30分～21時

【活動場所】 地域交流センター 講堂

【会員数】 12名

地域交流センター登録団体等を紹介するコーナー「よきで輝く」。「いつかいい〜かい〜さんかい〜うしろ〜まわし〜」陽気な音楽とともに元気な声が聞こえてくる。以前から何をしているのか気になっていたし、そもそも「3B」って何だろうと思っていた。今回は「3B体操教室」を紹介しよう。

3Bの「B」とはボール、ベルダー、ベルの「B」だ。この3つの「B」を使い、音楽に合わせて体操を行う。全身を動かすため、肩こり解消、腰痛予防、転倒予防などに効果がある。代表の小野光恵さんによれば、教室は約20年前、旧吉敷公民館の時代からあるらしい。近年、3B体操人口も多く、吉敷地域だけではなく、市内各所で体操教室が開かれているようだ。

「音楽に合わせてながら簡単に全身運動ができるのが楽しいし、教室での皆さんのおしゃべりも元気の源なんです！」とは、小野さんの紹介で教室に入った柳小夜子さんだ。この日も道具をもって元気に体操をされていた。元気な声で体操の指導をされているのが本田美紀さんだ。本田さんも、当初は近所の方から勧められて体操を始めた。気がついたら講師の免許をとるまでハマったとのこと。本田先

生への取材中、皆さんが「若くて綺麗な先生からも元気をもらっています」とアットホームな教室ならではの。

普段は活動の風景だけを見て取材を終えるところだが、皆さんの熱烈的なオファーを断ることができず、せっかくの機会なので3B体操を体験させてもらった。始めは簡単なステップとボールを使うぐらいで楽勝と思っていたが、全身運動を続けていると、すぐに発汗し、ベルダーを使うあたりから太ももがピクピクし始める…。なんと聞いていたら、3B体操あなどるなかれ(笑)

3つの「B」を使い、健康寿命を陽気に楽しく伸ばしていく教室だ。アットホームなこの教室に皆さんも気軽に参加してみたいかがだろうか。



ボール、ベルダー、ベルを使って健康を!

ふるさと「吉敷」を思う

吉敷佐畑に移ってきて三十年。当初は田んぼだらけで、牛がのんびりと草を食べていたり、家の周りを蛍が飛び交うなど、それはのどかな風景でした。それが今では様相が一変、家やアパートが立ち並び、人口も増えました。ずっと昔から住んでいる人、最近移ってきた人、転勤等で一時的に吉敷に住んでいる人。住んでいる年数だけでみても、地域に関わる程度関心は、人それぞれだと思います。そのようにさまざまな人々が住む地域において、今、何が必要なのでしょう。

「ソーシャルキャピタル」という言葉がある新聞で見ました。直訳すれば「社会関係資本」ですが、言わば地域における住民同士の結びつきを表わすもので、相互の信頼や協力によって作り上げられる地域の宝、財産のことだそう。そしてこれが豊かなほど治安や健康、幸福感などに良い影響を及ぼすとされているとのこと。

安心・安全、住民福祉への対応が求められている今、「ソーシャルキャピタル」の構築＝人的な財産づくりに向け、住民が皆で取り組むことにより、吉敷がさらに住み良いふるさととなるよう願っています。

広報委員 山下 武己

【発行・編集】

吉敷地区広報委員会(〒753-0816 山口市吉敷佐畑一丁目4番1号)

☎083-922-3344 吉敷地区地域づくり協議会

☎083-922-0668 吉敷地域交流センター(行政窓口担当)

☎083-922-3915 吉敷地域交流センター(地域担当)

吉敷地区地域づくり協議会 ウェブサイト

<http://www.yoshikibito.com/>

吉敷地区地域づくり協議会

検索